

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2001年 9月28日
Date of Application:

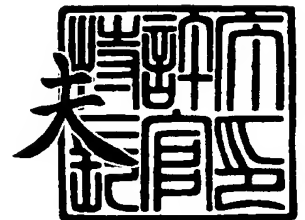
出願番号 特願2001-304105
Application Number:
[ST. 10/C]: [JP 2001-304105]

出願人 カネボウ株式会社
Applicant(s): 株式会社吉野工業所

2003年12月10日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井 康



()

【書類名】 特許願

【整理番号】 01-09-20

【提出日】 平成13年 9月28日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 B65D 83/14
B65D 83/30
A46B 1/00

【発明者】

【住所又は居所】 神奈川県小田原市寿町 5 - 3 - 2 8 カネボウ株式会社
化粧品研究所内

【氏名】 神保 圭治

【発明者】

【住所又は居所】 東京都港区海岸 3 - 2 0 - 2 0 カネボウ株式会社 カ
ネボウ ホームプロダクツ内

【氏名】 濱田 知実

【発明者】

【住所又は居所】 東京都港区海岸 3 - 2 0 - 2 0 カネボウ株式会社 カ
ネボウ ホームプロダクツ内

【氏名】 石川 桂子

【発明者】

【住所又は居所】 東京都港区海岸 3 - 2 0 - 2 0 カネボウ株式会社 カ
ネボウ ホームプロダクツ内

【氏名】 青木 芳恵

【発明者】

【住所又は居所】 東京都江東区大島 3 丁目 2 番 6 号 株式会社吉野工業所
内

【氏名】 角田 義幸

【発明者】

【住所又は居所】 東京都江東区大島 3 丁目 2 番 6 号 株式会社吉野工業所
内

【氏名】 當麻 徹

【特許出願人】

【識別番号】 000000952

【氏名又は名称】 カネボウ 株式会社

【特許出願人】

【識別番号】 000006909

【氏名又は名称】 株式会社 吉野工業所

【代理人】

【識別番号】 100076598

【弁理士】

【氏名又は名称】 渡辺 一豊

【電話番号】 03-3382-6771

【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 特願2001-193907

【出願日】 平成13年 6月27日

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 009162

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書
【発明の名称】 混合注出塗布装置
【特許請求の範囲】

【請求項 1】 左右に並列に隣接組合せされた一対の開閉機能付きの注出ノズル(35)を有した容器体(33)の上端部に、該容器体(33)の注出ノズル(35)を上方に突出させた状態で不動に組付く装着体(26)と、混合棒片(20)を起立設した注出筒(19)を上面中央に立設し、下方に開放した通路凹部(21)を形成したブロック本体(18)の下端後端縁に、前記注出ノズル(35)が密嵌入する一対の段付き孔(23)を開設し、該両段付き孔(23)に連通して、前記通路凹部(21)に下方から密嵌入して注出通路を形成する通路凸部(24)を上面に形成し、下面中央に摘まみ片(25)を垂下設した底蓋片(22)をヒンジ結合した通路ブロック体(17)と、左右に長い長円筒状の本体筒(9)の上端に頂板(11)を連設し、該頂板(11)に、左右に細長となった長円筒状の嵌合筒片(12)を立設すると共に、該嵌合筒片(12)内に開口する通路筒(13)を垂下設して構成され、前記本体筒(9)内に、前記通路筒(13)に混合棒片(20)を挿入させかつ注出筒(19)を密嵌入させて通路ブロック体(17)を組付け、前記装着体(26)に搭載状に組付いた状態で、前記通路ブロック体(17)を介して注出ノズル(35)に押し下げ力を作用させるキャップ体(8)と、前記頂板(11)上を覆うドーム筒(3)の内面に、前記嵌合筒片(12)に密嵌入する密嵌筒片(4)を設け、該密嵌筒片(4)を上方に開放するスリット状の注出口(5)の周囲に位置する前記ドーム筒(3)の外周部分に、多数のブラシ片(6)を立設し、前記キャップ体(8)に組付き固定するブラシ体(2)と、から成る混合注出塗布装置。

【請求項 2】 ブラシ体(2)をキャップ体(8)に着脱自在に組付き固定する構成とした、請求項 1 記載の混合注出塗布装置。

【請求項 3】 ブラシ体(2)をキャップ体(8)に分離不能に組付き固定する構成とした、請求項 1 記載の混合注出塗布装置。

【請求項 4】 容器体(33)をエアゾール式とした、請求項 1、2 または 3 記載の混合注出塗布装置。

【請求項 5】 混合棒片(20)の先端を尖頭状の形状とした、請求項 1、2、3 または 4 記載の混合注出塗布装置。

【請求項 6】 注出筒(19)の上端面に液流路の妨げとならない位置に、混合棒片(20)の起立端部を補強するための補強リブ片(42)を立設した、請求項 1、2、3、4 または 5 記載の混合注出塗布装置。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、一対の開閉機能付きの注出ノズルを有した容器から同時に内容物を噴出させると共に、この両噴出内容物を混合して注出し、注出した混合内容物をそのままブラシにより目的物に塗布する混合注出塗布装置に関するものである。

【0 0 0 2】

【従来の技術】

例えば、或る種の染毛剤のように、2 種の薬液を使用時に混合するタイプのもので、薬液を個々にエアゾール式容器に収納し、使用時に、この一対のエアゾール式容器から内容物である薬液を同時に噴出させると共に、この噴出した薬液を混合して一か所から注出し、これをブラシを利用して頭髮等に塗布する装置として、特開平 4 - 1 0 2 5 6 9 号公報に開示された技術がある。

【0 0 0 3】

この従来技術は、薬液を収納した一対のエアゾール式容器を並列に隣接して収納する有底の収納ケースと、この収納ケースの上端開口部を塞ぐ形態でヒンジ結合され、下面に各エアゾール式容器の注出ノズルが密嵌入して突き当たる段付き孔と、上面に吐出口と、そして両段付き孔と吐出口とを連通させる案内路とを形成したガイド部材の前端に、収納ケースの外側の前下方に垂下した押動レバーを連設した可動カバーと、吐出口に外嵌装着されるブラシ体と、から構成されている。

【0 0 0 4】

この従来技術にあつては、容器を掴持した片手の指で押動レバーを収納ケース側に押圧することにより、ヒンジ結合部を軸としてガイド部材を下降傾動させ、これにより一対のエアゾール式容器の注出ノズルを同時に押し下げて開放し、両エアゾール式容器の薬液を、段付き孔、案内路そして吐出口を経て、ブラシ体に

一体に混合吐出するので、一つの押動レバーに対する簡単な押圧操作により、二つのエアゾール式容器の内容物を、同時にかつ一体に混合した状態、すなわち使用することのできる状態で吐出し、そのままブラシ体を利用して塗布する、と云う優れた効果を発揮する。

【 0 0 0 5 】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上記した従来技術にあつては、吐出口を設けた可動カバーと収納ケースとがヒンジ結合されているので、内容物の注出通路を形成する部分、およびブラシ体部分を、注出ノズルを有した容器への組付き部分と簡単に分離させることができず、このため繰り返して使用するに際しての注出通路形成部分およびブラシ体部分の洗浄が行い難い、と云う問題があった。

【 0 0 0 6 】

また、注出通路形成部分は、可動カバーとガイド部材との組合せにより構成されているのであるが、図示構成からは、両部材の分離が容易とは考え難く、むしろ確実なシール性を得るための固定がされているので、例え注出通路形成部分を注出ノズルを有した容器への組付き部分と分離させても、通路内を洗浄することは殆ど不可能である、と云う問題があった。

【 0 0 0 7 】

そこで、本発明は、上記した従来技術における問題点を解消すべく創案されたもので、エアゾール式、ポンプ式等の注出ノズルを有した容器中の内容物の注出通路を形成する部分およびブラシ部分を、注出通路を露出させることができる構造に構成することを技術的課題とし、もって使用后、内容物注出通路形成部分およびブラシ部分に付着した内容物を、十分に洗い落とすことができるようにすることを目的とする。

【 0 0 0 8 】

【課題を解決するための手段】

上記技術的課題を解決する本発明の内、請求項 1 記載の発明の手段は、左右に並列に隣接組合せされた一対の開閉機能付きの注出ノズルを有した容器体の上端部に、この容器体の注出ノズルを上方に突出させた状態で不動に組付く装

着体を有すること、

混合棒片を起立設した注出筒を上面中央に立設し、下方に開放した通路凹部を形成したブロック本体の下端後端縁に、注出ノズルが密嵌入する一对の段付き孔を開設し、この両段付き孔に連通して、通路凹部に下方から密嵌入して注出通路を形成する通路凸部を上面に形成し、下面中央に摘まみ片を垂下設した底蓋片をヒンジ結合した通路ブロック体を有すること、

左右に長い長円筒状の本体筒の上端に頂板を連設し、この頂板に、左右に細長となった長円筒状の嵌合筒片を立設すると共に、この嵌合筒片内に開口する通路筒を垂下設して構成され、本体筒内に、通路筒に混合棒片を挿入させかつ注出筒を密嵌入させて通路ブロック体を組付け、装着体に搭載状に組付いた状態で、通路ブロック体を介して注出ノズルに押し下げ力を作用させるキャップ体を有すること、

頂板上を覆うドーム筒の内面に、嵌合筒片に密嵌入する密嵌筒片を設け、この密嵌筒片を上方に開放するスリット状の注出口の周囲に位置するドーム筒の外面部分に、多数のブラシ片を立設し、キャップ体に組付き固定するブラシ体を有すること、

にある。

【0009】

この請求項1記載の発明による混合注出塗布装置は、ブラシ体とキャップ体と通路ブロック体との組合せ物である塗布体、すなわち内容物の注出通路形成部分とブラシ体とから構成される部分と、装着体、すなわち容器体への組付き部分とから構成されている。

【0010】

塗布体を構成するブラシ体とキャップ体と通路ブロック体の相互間は、ブラシ体は、その密嵌筒片をキャップ体の嵌合筒片に密嵌入させて、キャップ体に組付き固定し、またキャップ体に対して通路ブロック体は、摘まみ片を摘んで引き下げることにより、簡単に分離でき、そして容器体の注出ノズルに対して通路ブロック体は、塗布体を装着体から上方に分離させるのと一緒に分離する。

【0011】

通路ブロック体はキャップ体および容器体の注出ノズルから分離され、混合棒片が開放され、またそのブロック本体に対して底蓋片を回動開放することにより、注出通路を形成する注出筒内と通路凹部と通路凸部と两段付き孔内を開放し、その注出通路形成部分の全てを開放する状態となるので、残存付着した内容物を容易にかつ十分に洗い落とすことができる。

【0012】

ブラシ体とキャップ体とは組付き固定状態であり、両者を、着脱自在とするかあるいは分離不能とするかは目的に応じて選択することが可能であるが、少なくともキャップ体を装着体から取り外して、ブロック体を分離した状態で、ブラシ体とキャップ体の組合わせ物を洗浄することができ、残存付着した内容物を充分洗い落とすことができる。

【0013】

請求項2記載の発明の手段は、請求項1の発明において、ブラシ体をキャップ体に着脱自在に組付き固定する構成とすること、にある。

【0014】

ブラシ体とキャップ体は組付き固定した状態でも充分洗浄が可能であるが、請求項2の上記構成より、ブラシ体とキャップ体とを分離することができ、高い洗浄効果を得ることができ、付着した内容物を容易にかつ充分洗い落とすことができる。

【0015】

請求項3記載の発明の手段は、請求項1の発明において、ブラシ体をキャップ体に分離不能に組付き固定する構成とすること、にある。

【0016】

請求項3記載の上記構成により、ブラシ体とキャップ体の組合わせ物は、注出通路形成部分の全てを開放するわけではないが、キャップ体を装着体から取り外して、ブロック体を分離した状態で、ブラシ体とキャップ体の組合わせ物を洗浄することができ、また構造が簡単な形状であるので、残存付着した内容物を洗い落とすことができる。

【0017】

また、キャップ体に対するブラシ体の組付きが強固に確保されるので、ブラシ体の安定した使用状態と確実なシール性とを得ることができ、ブラシ体とキャップ体とを分離させない分、分解取扱いおよび構造が簡単となる。

【0018】

請求項4記載の発明の手段は、請求項1、2または3の発明において、容器体をエアゾール式とすること、にある。

【0019】

通常、エアゾール式容器の注出ノズルを指で押すと、かなりの押下げ力を要し、またその押下げのストロークが短いため注出量の加減がし難いが、請求項4の上記構成は、キャップ体により通路ブロック体を介して注出ノズルに押し下げ力を作用させるものであり、比較的小さな力で、注出量を加減しながら内容物を注出させることが可能となる。

【0020】

請求項5記載の発明の手段は、請求項1、2、3または4の発明において、混合棒片の先端を尖頭状の形状とすること、にある。

【0021】

通路ブロック体とキャップ体を組付けるに際し混合棒片をキャップ体の通路筒に挿入するが、請求項5の上記構成により、混合棒片の先端を引っ掛けることなくスムーズに挿入することができ、組付け時における混合棒片の破損を防止することができる。

【0022】

請求項6記載の発明の手段は、請求項1、2、3、4または5の発明において、注出筒の上端面に液流路の妨げとならない位置に、混合棒片の起立端部を補強するための補強リブ片を設けること、にある。

【0023】

請求項6の上記構成により、通路ブロック体とキャップ体との組付けあるいは取り外し時等において、他の部材に引っ掛ける等で、不本意に混合棒片に力がかかると、その起立端部に応力集中が発生するが、請求項5記載の補強リブにより、この応力集中を緩和して混合棒片の破損を防止する。

【0024】**【発明の実施の形態】**

以下、本発明の実施例を、図面を参照しながら説明する。

図1ないし図9は、本発明の第1実施例を示すもので、容器体33はエアゾール式容器であり、細長有底円筒状をした金属製本体の縮径した口部に、弁による開閉機能部を備えた注出ノズル35を有する金属製のキャップをカシメ固定して頭部34を形成し、注出ノズル35は、この頭部34上面に起立した状態となっている。

【0025】

装着体26（図9参照）は、左右に並列に隣接配置された一対の容器体33の上端部に外嵌する長円筒状の外装筒27の上端に、開口部29を開設して内鑄状となった頂壁28を連設し、この頂壁28の下面の左右両端部に、容器体33の頭部34に外嵌して、頭部34直下の周溝部にアンダーカット結合する、略半円弧筒片状の嵌着筒片31を垂下設すると共に、頂壁28の上面の開口部29左右開口縁に、半円弧筒片状のガイド片30を起立設し、さらに外装筒27の前後表面の中央部に、縦突条状の支え突片32を間隔を開けて一対づつ設けて構成されている。

【0026】

この装着体26は、並列に隣接配置された一対の容器体33に、上方から被嵌状に組付けることにより、両嵌着筒片31が容器体33の頭部34に強固にかつ不動に外嵌結合して組付き、注出ノズル35は開口部29から突出した状態となる。

【0027】

また、外装筒27は長円筒状となっているので、一対の容器体33に外装した状態では、その前後壁の中央部分と両容器体33との間に、両容器体33の隣接部に形成される谷状部により、空間が形成される。

【0028】

塗布体1を構成するブラシ体2とキャップ体8と通路ブロック体17の内、通路ブロック体17（図8参照）は、多数の傾斜した鑄状片20aを有する混合棒

片 20 を上端から起立設した注出筒 19 を上面中央に立設し、下面に下方に開放した左右に長い通路凹部 21 を形成したブロック本体 18 と、容器体 33 の注出ノズル 35 が突き抜け不能に密嵌入する一对の段付き孔 23 を開設し、この両段付き孔 23 を連通し、通路凹部 21 に下方から密嵌入して注出通路を形成する通路凸部 24 を上面に形成し、下面中央に摘み片 25 を垂下設した底蓋片 22 とを、その後端縁間をヒンジ結合して構成され、ブロック本体 18 の前端縁部に、閉状態となった底蓋片 22 の前端縁に乗り越え係止して、この底蓋片 22 の閉状態を確保する係止機能部分が設けられている。

【0029】

また、塗布体 1 を構成するブラシ体 2 とキャップ体 8 と通路ブロック体 17 の内、キャップ体 8 (図 6 と図 7 参照) は、左右に長い長円筒状の本体筒 9 の上端に、右から左に 30° の角度で下降傾斜した嵌着段部 10 を介して頂板 11 を連設し、この頂板 11 に、左右に細長となった長円筒状の嵌合筒片 12 を立設すると共に、この嵌合筒片 12 内に開口する通路筒 13 を垂下設し、また前後中央部の本体筒 9 から嵌着段部 10 にかけての部分に、係止窓孔 14 を開設し、さらに本体筒 9 の前後外面の中央下端部から、下端部内面に引き下げ突片 16 を突設した操作脚片 15 を垂下設して構成されている。

【0030】

このキャップ体 8 は、通路ブロック体 17 を組付けた状態で、通路ブロック体 17 の段付き孔 23 を注出ノズル 35 に密嵌合させた状態で、装着体 26 に、その両操作脚片 15 で跨ぐ姿勢で搭載組付けされた際に、装着体 26 の外装筒 27 の下面縁の一部である当接下縁に対向する両操作脚片 15 の下端部の内側面箇所引き下げ突片 16 が位置しており、この引き下げ突片 16 の内方に下降傾斜した上面が外装筒 27 の当接下縁に軽く当接している。

【0031】

それゆえ、両操作脚片 15 の下端部を指先で摘むようにして押圧すると、外装筒 27 の当接下縁に軽く当接している引き下げ突片 16 の傾斜面の作用により、キャップ体 8 は通路ブロック体 17 と一緒に引き下げられ、注出ノズル 35 を押し下げることになる。

【0032】

なお、本第1実施例ではエアゾール式の容器体33を使用しているが、操作脚片15の押圧操作により、注出ノズル35を押下げる構成であり、ポンプ式の容器体33を使用することも可能である。

【0033】

両操作脚片15は、キャップ体8が一对の容器体33と装着体26との組合せ物に組付けられると、一对の支え突片32の間に位置して、外装筒27の前後表面に沿って垂下状に位置するが、この操作脚片15の外面は、両側の支え突片32よりも外方に突出することはない。

【0034】

また、両操作脚片15は、一对の容器体33と装着体26との組合せ物に対してキャップ体8が組付けられた状態で、引き下げ突片16を外装筒27の当接下縁に軽く当接させて、この外装筒27の当接下縁に軽く係止した状態となっているので、この係止力がキャップ体8の組付きを保持することになる。

【0035】

そして、両操作脚片15の引き下げ突片16は、外装筒27と容器体33との間に空間が形成される、前後側の中央部分に位置するので、両操作脚片15を摘まみ状に押圧操作した際に、引き下げ突片16は容器体33に突き当たることなく内方に変位して、両操作脚片15を確実に引き下げる。

【0036】

なお、本実施例では操作脚片15をキャップ体8から垂下設し、装着体26の外装筒27の当接下縁に当接させ、指先で挟むようにして押圧する構成としているが、本発明はこの構成に限定されるものではなく、キャップ体8および外装筒27のいずれか一方に、外装筒27の前後面の中央部に対向する位置になるよう一对の操作脚片15を接続し、他方に当接下縁に相当する部分を設けることにより構成することが可能である。

【0037】

このキャップ体8に対する通路ブロック体17の組付けは、本体筒9内に、通路筒13に混合棒片20を挿入しかつ注出筒19を密嵌入させた状態で、通路ブ

ロック体 17 を嵌入させることにより達成され、この状態では、通路筒 13 内を通過する 2 種の内容物は、混合棒片 20 の多数の鐳状片 20a により攪拌されて、十分に混合されることになる。

【0038】

また、キャップ体 8 に通路ブロック体 17 を組付けた状態では、左右の本体筒 9 と通路ブロック体 17 との間に、装着体 26 のガイド片 30 が昇降自在に遊嵌する隙間が形成され、この隙間に対するガイド片 30 の遊嵌により、装着体 26 に対するキャップ体 8 の搭載組付き姿勢を安定的に保持する。

【0039】

塗布体 1 を構成するブラシ体 2 とキャップ体 8 と通路ブロック体 17 の内、ブラシ体 2（図 4 と図 5 参照）は、本第 1 実施例においてはキャップ体 8 に着脱自在に組付き固定する構成としており、キャップ体 8 の嵌着段部 10 に外嵌するドーム筒 3 の内面に、嵌合筒片 12 に密嵌入する密嵌筒片 4 を垂下状に設け、この密嵌筒片 4 の内部を上方に開放する左右に細長く延びたスリット状の注出口 5 を、ドーム筒 3 の上面箇所に開設し、この注出口 5 の周囲のドーム筒 3 上面に多数のブラシ片 6 を立設し、ドーム筒 3 の前後壁中央から、キャップ体 8 の係止窓孔 14 に侵入して係止する組付き脚片 7 を垂下状に設けて構成されている。

【0040】

このブラシ体 2 の組付き脚片 7 は、図 3 から明らかなように、その一部を外方に膨出させているので、指先により摘み状に押圧し易く、このためブラシ体 2 のキャップ体 8 からの分離が行い易い。

【0041】

なお、図 2 から明らかなように、ブラシ体 2 は左方に $20 \sim 40^\circ$ 、望ましくは 30° 傾いているので、容器体 33 を持って、ブラシ体 2 のブラシ片 6 間に混合注出された内容物を、頭髮等の目的箇所に塗布する際に、このブラシ体 2 を目的箇所に沿った姿勢とすることが容易であり、これにより注出した内容物の塗布操作が行い易くなる。

【0042】

図 10 は、本発明の第 2 実施例を示すもので、ブラシ体 2 をキャップ体 8 に分

離不能に組付き固定した構成であり、このブラシ体 2 とキャップ体 8 以外の部分の構成は、第 1 実施例と同じである。

【0043】

ブラシ体 2 とキャップ体 8 とは、ブラシ体 2 の密嵌筒片 4 を、キャップ体 8 の嵌合筒片 12 に密嵌入させると共に、不動にアンダーカット結合させることにより、分離不能に組み合わさっており、このため着脱自在な組付きを達成するための構造部分である、ブラシ体 2 の組付き脚片 7、およびキャップ体 8 の係止窓孔 14 は設けられていない。

【0044】

ブラシ体 2 とキャップ体 8 の分離ができないため、注出通路形成部分の全てを開放するわけではないが、キャップ体 8 を装着体 26 から取り外し、通路ブロック体と分離することにより、その下方は大きく開放されており、注出通路形成部分である通路筒 13、嵌合筒片 12、密嵌筒片 4 等の構造が比較的大きく簡単な形状であるため、その洗浄は充分可能である。

【0045】

キャップ体 8 に対するブラシ体 2 の組付きが強固に確保されるので、ブラシ体 2 の安定した使用状態と確実なシール性とを得ることができ、またブラシ体 2 とキャップ体 8 とを分離させない分、分解取扱いおよび構造が簡単となる。

【0046】

図 11 および図 12 は、装着体 26 の他の構造例を示すもので、装着体 26 の本体部分から、装着筒片 31 だけを分離させた構造で、装着筒片 31 を除く装着体 26 の他の部分の構造には変わりがなく、装着筒片 31 は、装着体 26 とは別体でかつ装着体 26 にアンダーカット結合する結合体 36 に設けられている。

【0047】

結合体 36 は、左右に長い長円板状の連結板 37 の下面両側端にそれぞれ装着筒片 31 を垂下状に設け、両装着筒片 31 の外周面に、装着体 26 とアンダーカット結合するための係止突条 39 を設け、さらに各装着筒片 31 の内側となる連結板 37 部分に、容器体 33 の注出ノズル 35 が突出するための開口 38 が開設されている。なお、連結板 37 の中央には、通路ブロック体 17 の摘まみ片 25

が挿通する逃げ孔が設けられている。

【0048】

この結合体36は、一对の容器体33の頭部34に外嵌することにより、この一对の容器体33の隣接した並列組付き姿勢を安定して確保し、これにより容器体3に対する装着体26の組付けに先立つ、一对の容器体33に対するシュリンクラベルの装着を、良好な状態で達成できるようにしている。

【0049】

図13および図14は、通路ブロック体17の他の構造例を示すものであり、混合棒片20の先端に尖頭部41を付設しその先端を尖頭状にしており、また注出筒19の上端面に、液流路の妨げとならない、略等角度の位置に4箇所から補強リブ片42を立設、混合棒片20の最下部に位置する錨状片20aに連結する構成としている。他の構成については第1実施例と同様である。

【0050】

尖頭部41の付設により、キャップ体8との組付け操作時における、混合棒片20の通路筒13への挿入をスムーズに実施することができ、また錨状片20aが通路筒の下端面に引っ掛かる等して混合棒片20が変形、破損することを防止できる。

【0051】

また、通路ブロック体17とキャップ体8との組付けあるいは取り外し操作等において、他の部材に引っ掛ける等をし、不本意に混合棒片20に力がかかると、その起立端部に応力集中が発生するが、補強リブ片42によりこの応力集中を緩和して混合棒片20の破損を防止することができる。

【0052】

【発明の効果】

本発明は、上記した構成となっているので、以下に示す効果を奏する。

請求項1記載の発明にあつては、内容物の注出通路を形成する塗布体を構成する、ブラシ体とキャップ体と通路ブロック体のうち、少なくとも通路ブロック体を単独に分離できる構造としており、複雑な流路を形成する通路ブロック体の注出通路の全てを露出させることができるものとしたので、注出通路に残存付着し

た内容物を、容易にかつ十分に洗い落とすことができ、内容物の塗布使用を好ましい状態で繰り返すことができる。

【 0 0 5 3 】

ブラシ体とキャップ体とを分離不能にするか、着脱自在にするかは目的に応じて選択することが可能であり、少なくともキャップ体を装着体から取り外して、ブロック体を分離した状態で、ブラシ体とキャップ体の組合わせ物を洗浄することができ、残存付着した内容物を充分洗い落とすことができる。

【 0 0 5 4 】

請求項 2 の発明は、ブラシ体とキャップ体を分解できる構成としたので、注出流路の高い洗浄効果が得られ、残存付着した内容物を容易にかつ十分に洗い落とすことができる。

【 0 0 5 5 】

請求項 3 の発明は、ブラシ体とキャップ体を分離不能とする構成としたので、ブラシ体とキャップ体の組合せ物は、注出通路形成部分の全てを開放するわけではないが、構造が簡単な形状であるため、その洗浄は充分可能であり残存付着した内容物を充分洗い落とすことができ、また、キャップ体に対するブラシ体の組付きが強固に確保されるので、ブラシ体の安定した使用状態と確実なシール性を得ることができ、またブラシ体とキャップ体とを分離させない分、分解取扱いおよび構造が簡単となる。

【 0 0 5 6 】

請求項 4 の発明は、キャップ体により通路ブロック体を介して注出ノズルに押し下げ力を作用させるものであり、エアゾール式容器についても比較的小さな力で、注出量を加減しながら内容物を注出させることができる。

【 0 0 5 7 】

請求項 5 の発明は、混合棒片の先端を尖頭状にすることにより、部品の組付けをスムーズに実施することができ、また混合棒片の破損を防止することができる。

【 0 0 5 8 】

請求項 6 の発明は、混合棒片を補強するリブ片を設けることにより、混合棒片

の破損を防止する。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の第 1 実施例を示す、分解説明図。

【図 2】

図 1 に示した実施例の、一部を残した縦断正面図。

【図 3】

図 1 に示した実施例の、不規則縦断側面図。

【図 4】

図 1 に示した実施例の、ブラシ体の縦断正面図。

【図 5】

図 4 に示したブラシ体の、縦断側面図。

【図 6】

図 1 に示した実施例の、キャップ体の縦断正面図。

【図 7】

図 6 に示したキャップ体の、半縦断側面図。

【図 8】

図 1 に示した実施例の、通路ブロック体開放状態の一部を残した縦断側面図。

【図 9】

図 1 に示した実施例の、装着体の半縦断正面図。

【図 1 0】

本発明の第 2 実施例を示す、一部破断した要部正面図。

【図 1 1】

装着体の他の実施例を示す、一部破断した正面図。

【図 1 2】

図 1 1 に示した実施例における、結合体の平面図。

【図 1 3】

通路ブロック体の他の実施例の、開放状態の一部を残した縦断側面図。

【図 1 4】

図 1 3 中、A - A 線に沿って切断矢視した平断面図

【符号の説明】

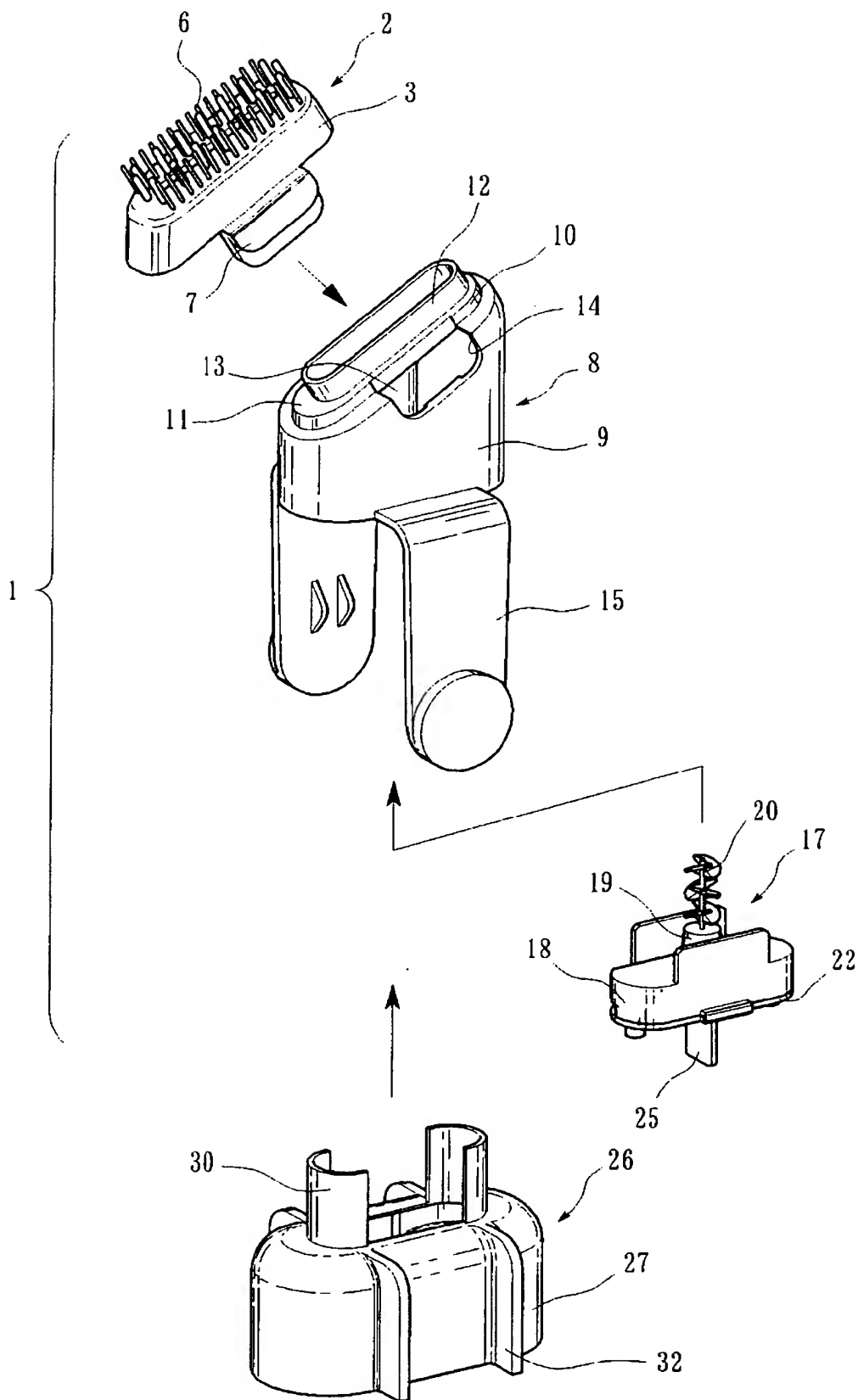
- 1 ; 塗布体
- 2 ; ブラシ体
- 3 ; ドーム筒
- 4 ; 密嵌筒片
- 5 ; 注出口
- 6 ; ブラシ片
- 7 ; 組付き脚片
- 8 ; キャップ体
- 9 ; 本体筒
- 1 0 ; 嵌着段部
- 1 1 ; 頂板
- 1 2 ; 嵌合筒片
- 1 3 ; 通路筒
- 1 4 ; 係止窓孔
- 1 5 ; 操作脚片
- 1 6 ; 引き下げ突片
- 1 7 ; 通路ブロック体
- 1 8 ; ブロック本体
- 1 9 ; 注出筒
- 2 0 ; 混合棒片
- 2 0 a ; 鐐状片
- 2 1 ; 通路凹部
- 2 2 ; 底蓋片
- 2 3 ; 段付き孔
- 2 4 ; 通路凸部
- 2 5 ; 摘まみ片
- 2 6 ; 装着体

- 2 7 ; 外装筒
- 2 8 ; 頂壁
- 2 9 ; 開口部
- 3 0 ; ガイド片
- 3 1 ; 嵌着筒片
- 3 2 ; 支え突片
- 3 3 ; 容器体
- 3 4 ; 頭部
- 3 5 ; 注出ノズル
- 3 6 ; 結合体
- 3 7 ; 連結板
- 3 8 ; 開口
- 3 9 ; 係止突条
- 4 1 ; 尖頭部
- 4 2 ; 補強リブ

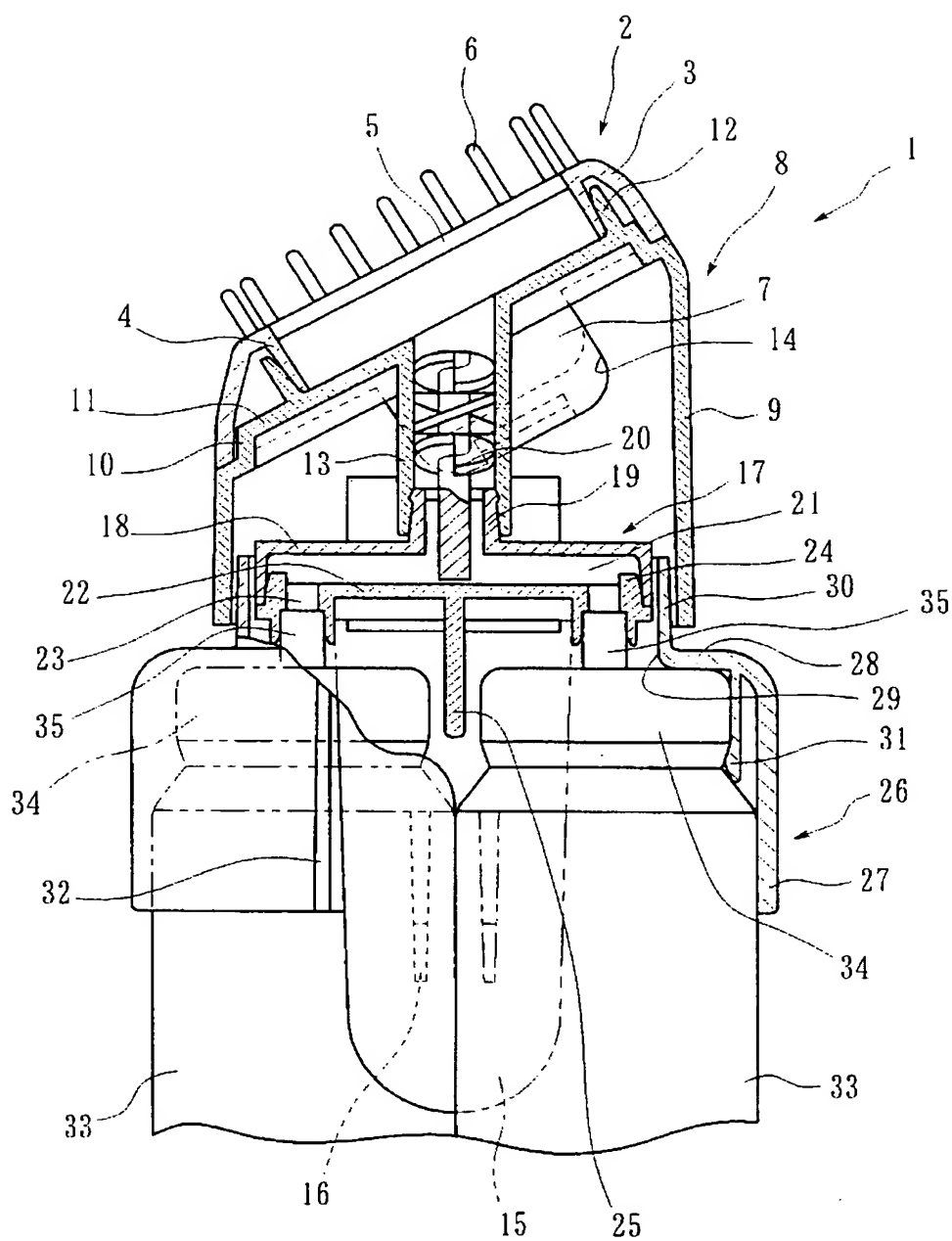
【書類名】

図面

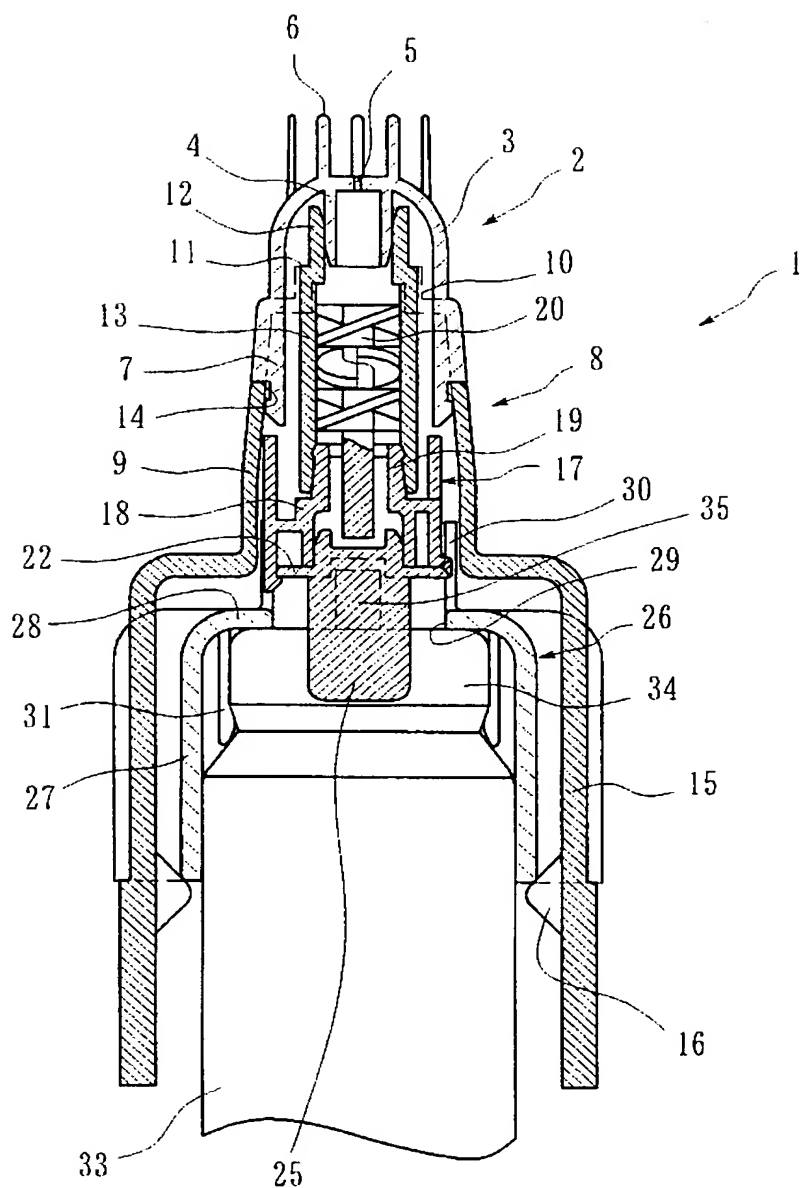
【図 1】



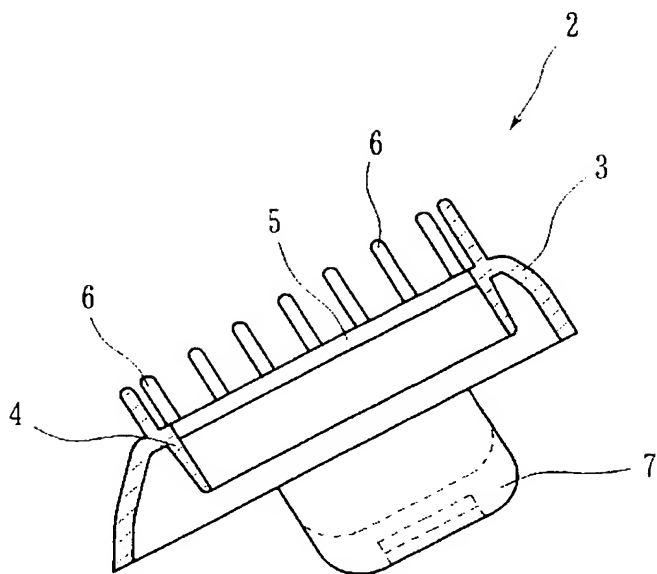
【図 2】



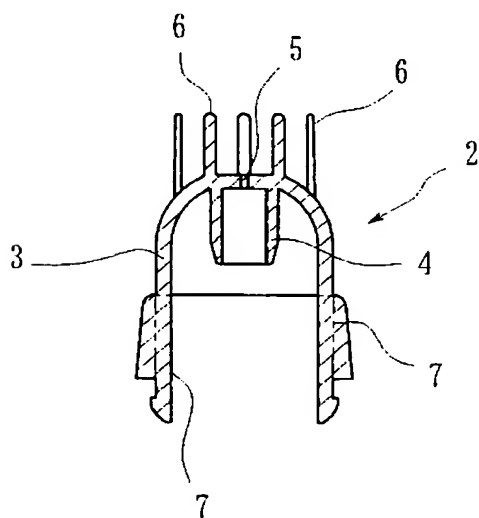
【図 3】



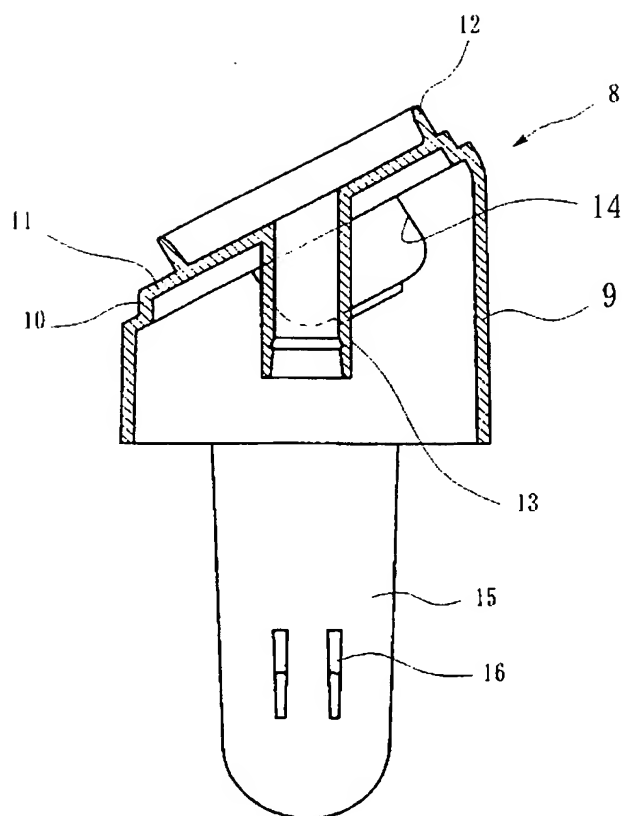
【図 4】



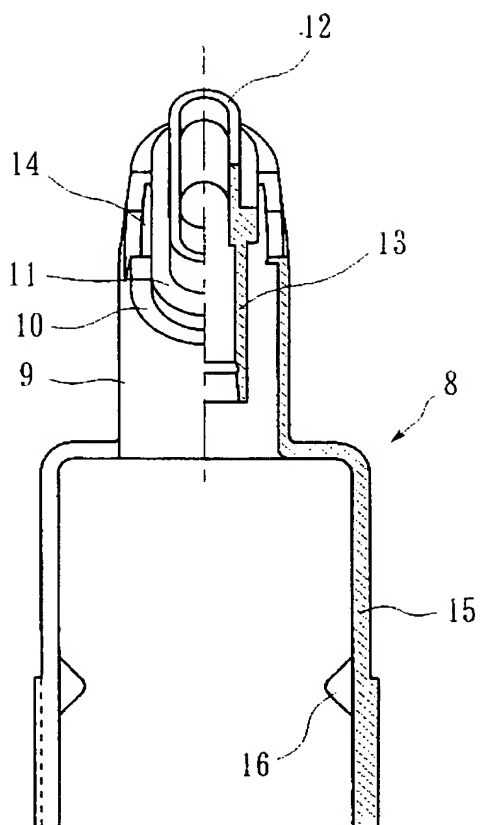
【図 5】



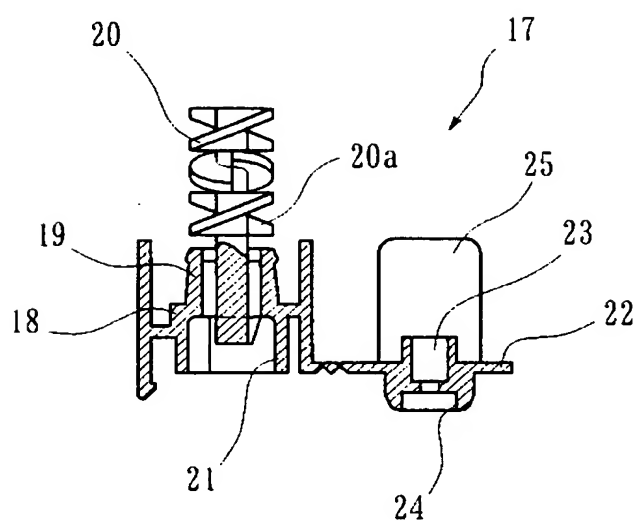
【図 6】



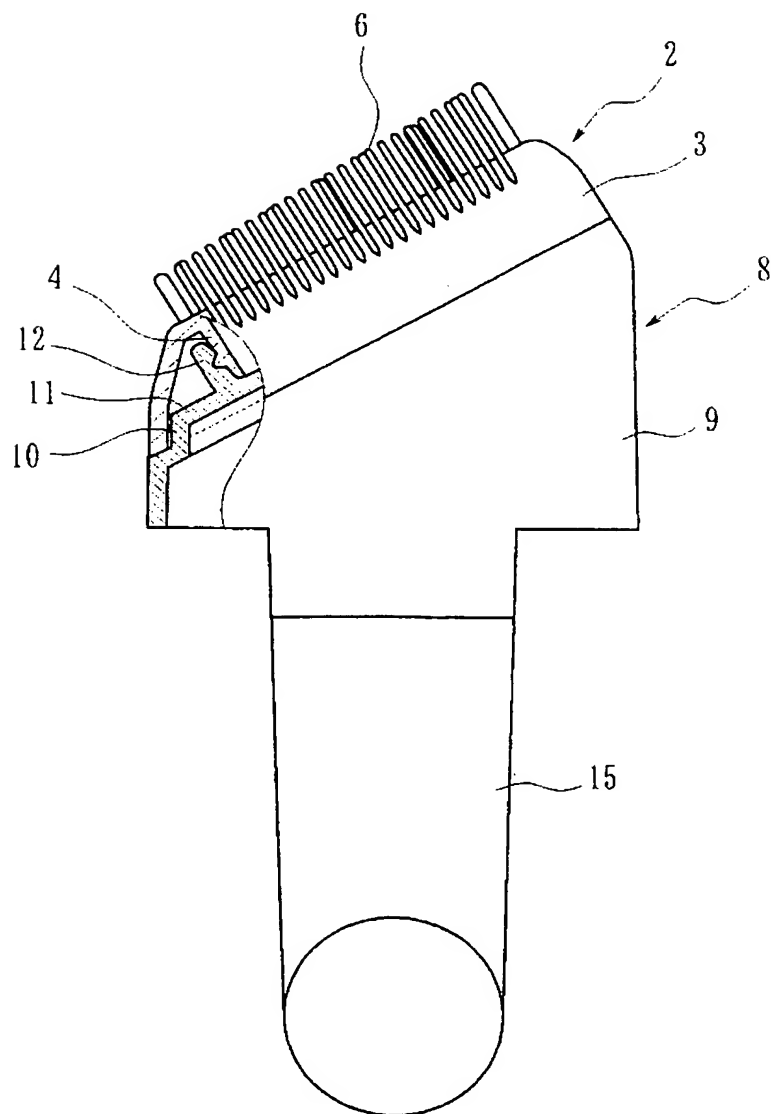
【図 7】



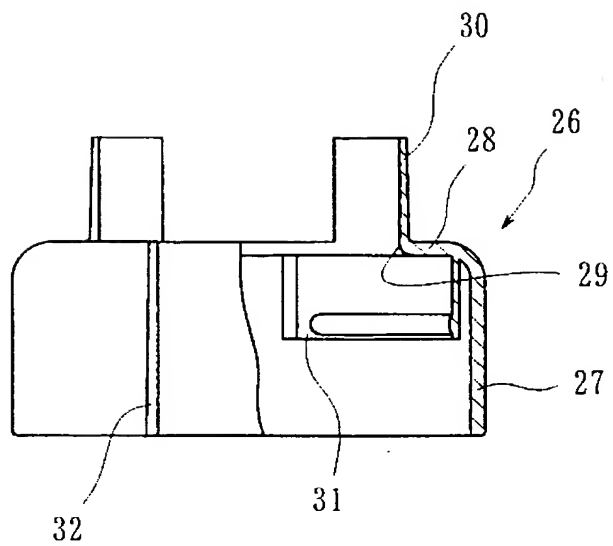
【図 8】



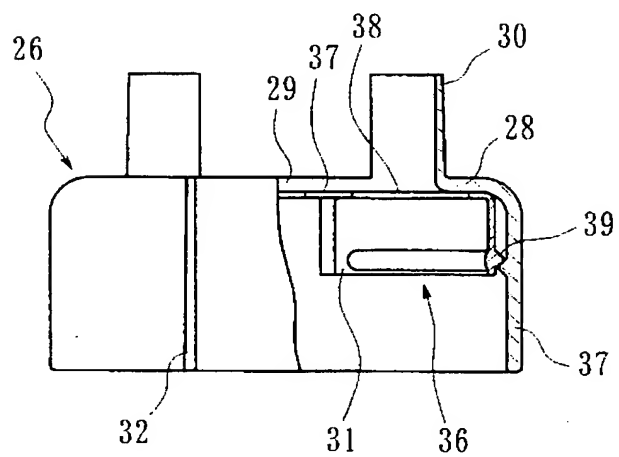
【図 9】



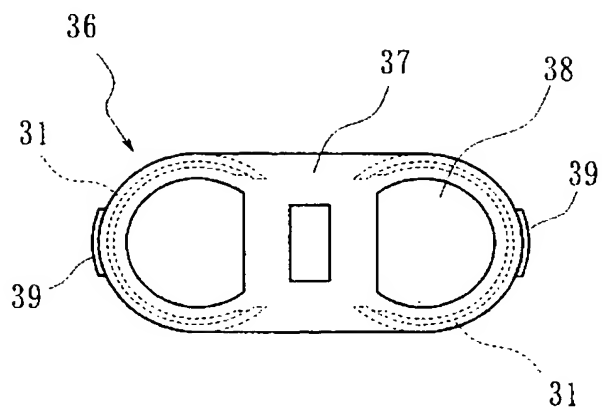
【図 10】



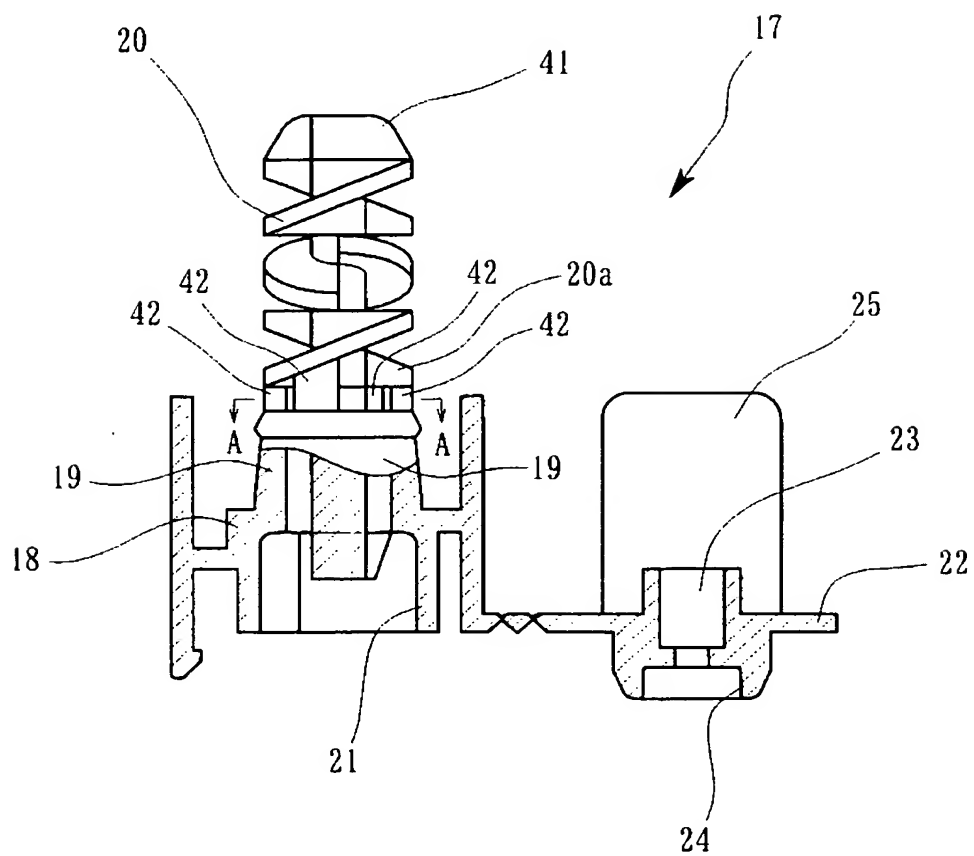
【図 11】



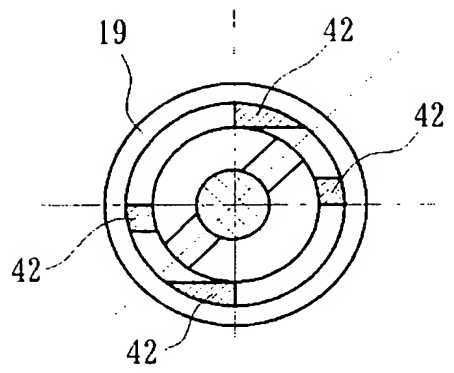
【図 12】



【図 13】



【図 14】



【書類名】 要約書

【課題】 内容物を混合注出塗布する装置において、内容物の注出通路を形成する部分を、注出通路を露出できる構成とすることにより、注出通路形成部分に付着した内容物を簡単にかつ十分に洗い落とせるようにする。

【解決手段】 注出ノズルを有する一対の容器体 3 3 に不動に外装する装着体 2 6 と、容器体 3 3 の注出ノズル 3 5 からの内容物を混合して導き、かつ内部通路を書籍状に開放可能とした通路ブロック体 1 7 と、組付けた通路ブロック体 1 7 を介して注出ノズル 3 5 に押し下げ力を作用させると共に、通路ブロック体 1 7 からの内容物を導くキャップ体 8 と、キャップ体 8 からの内容物を多数のブラシ片 6 間に注出するブラシ体 2 とから構成し、少なくとも、通路ブロック体 1 7 とキャップ体 8 との分離を容易とした。

【選択図】 図 1

特願 2 0 0 1 - 3 0 4 1 0 5

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[0 0 0 0 0 0 9 5 2]

1. 変更年月日

2 0 0 1 年 1 月 4 日

[変更理由]

名称変更

住 所

東京都墨田区墨田五丁目 1 7 番 4 号

氏 名

カネボウ株式会社

特願 2 0 0 1 - 3 0 4 1 0 5

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[0 0 0 0 0 6 9 0 9]

1 . 変更年月日

1 9 9 0 年 8 月 2 3 日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都江東区大島 3 丁目 2 番 6 号

氏 名

株式会社吉野工業所